

1 学校教育目標

○つよい子 ○考える子 ○やさしい子 ○はたらく子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

| | |
|---------|---|
| ○学校像 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童にとって「楽しいと感ずることが出来る学校」(わかる・できる・うれしい・つながる) ・保護者や地域にとって「信頼できる学校」(安全・安心・健全) ・教職員にとって「はたらきがいのある学校」(切磋琢磨・資質向上・充実感・達成感) |
| ○児童・生徒像 | <p><かしこく> ・基礎学力が身に付いた児童(様々な知識・技能、聞く・話す・読む・書く・計算する力) ・確かな学力が身に付いた児童(思考力・判断力・表現力・コミュニケーション力・行動力・学ぶ意欲など)</p> <p><やさしく> ・場に応じた言葉遣いのできる児童(あいさつをする・言葉遣いに気をつける) ・自分も人も大切にできる児童(自信をもつ・人と関わり合う・人を思いやる心・自然に親しむ)</p> <p><たくましく> ・よりよい生活習慣を身に付けた児童(心身の健康を保つ・安全な生活を送る・明るく生活する) ・自ら体を動かし体力の向上に努力する児童(進んで遊ぶ、体を動かす、運動する)</p> |
| ○教師像 | <ul style="list-style-type: none"> ・社会の変化を感じ取り、時代を見通した対応ができる資質・能力を身につけた教師。 ・学習指導力、児童理解力、生活・進路指導力、外部との連携・折衝力、学校運営力・組織貢献力 |

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

- 児童について 基礎的な学力は着実に身に付き、向上している。今後は習熟が十分な児童への発展的な学習の充実と習熟が不十分な児童への丁寧な個別指導の徹底を図っていく。他者とのかかわりについて肯定的な児童も多い。
- 教師について 足立スタンダードに基づいた授業をほとんどの教員が実践している。生活指導も熱心に行う教員が多い。ICT機器が導入され、積極的に授業に取り入れ、授業改善に生かしている。日常の業務が多忙な中、地域行事や外部の大会等に多くの教員が参加し、児童の育成に尽力している。
- 保護者・地域について 地域の学校としての誇りをもち、子どもたちの成長のために惜しみない愛情をもって接してくれている。学校に対してもとても協力的で、学校行事にも積極的に参加してくれている。

【前年度の成果と課題】

重点的な取組事項－1 学力向上

- ・通過率国語87.8%、算数87.5%で目標の87%を国語、算数ともに上回り、達成できた。
- ・学力向上アクションプランに示した7項目は、**◎：十分達成が1項目、○：おおむね達成が6項目**であり、学力向上に関してはおおむね達成できたと考える。

重点的な取組事項－2 豊かな心

- ・児童の豊かな人間性の育成を目指した4項目の取組は、**◎：十分達成が1項目、○：おおむね達成が3項目**であり、おおむね達成できたと考える。人とのかかわりについては昨年度より肯定的評価が増えている。児童同士だけでなく様々な外部講師や地域の方とのかかわりも効果があったと考える。

重点的な取組事項－3 たくましい体

- ・自らの健康と体力の向上を目指す児童の育成を目指した3項目の取組は、**○：おおむね達成が3項目**であり、おおむね達成できたと考える。体力調査における体力合計点では若干だが都の平均を上回った。長座体前屈、立ち幅跳び、シャトルランに課題が見られるので、投力と合わせ重点項目として取り組んでいく。

4 重点的な取組事項

| | 内 容 | 実施期間（年度） H:平成 R:令和 | | | | |
|---|--------------|--------------------|----|----|----|----|
| | | H30 | R1 | R2 | R3 | R4 |
| 1 | 学力向上アクションプラン | ○ | ○ | ○ | ◎ | ◎ |
| 2 | 豊かな心の育成 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 3 | たくましい体の育成 | ○ | ◎ | ◎ | ○ | ○ |

5 令和2年度の重点目標

| 重点的な取組事項－1 | | 学力向上アクションプラン | | | | | | | |
|---|--------------|--|----------|---|-------------|--|---|---|-------------|
| A 今年度の成果目標 | | 達成基準 (目標通過率) | | 実施結果 (通過率結果) | | コメント・課題 | | 達成度 ◎○△● | |
| <ul style="list-style-type: none"> 4月実施の足立区学力向上に関する総合調査結果の目標達成 2月実施の予備調査結果の目標達成 | | <ul style="list-style-type: none"> 2月予備調査 通過率 国語78%算数78% R3年度4月調査 通過率 国語88%算数88% | | 2月予備調査 86.3% (国83%、算89.6%) 4月区調査 — % (国—%、算—%) | | ・2月予備調査については、国語も算数も目標を超えることができた。国語については定着が十分ではない学年が1学年ある。読解力向上を中心に、来年度に向けて定着を図っていく。 | | ◎ | |
| B 目標実現に向けた取組み | | | | | | | | | |
| 新・継 | アクションプラン | 対象・実施教科 | 頻度・実施時期 | 具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように) | 達成確認方法 | 達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度) | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 ◎○△● |
| 1 新規 | 全校百マス計算大会 | 全学年算数 | 2か月に1回程度 | 【指導者体制】 担任+専科 【取組のねらい・目的】 基礎学力の定着 朝パワーアップ時 | 標準タイムの達成者人数 | <ul style="list-style-type: none"> 年間4回実施 各学年の標準タイムを8割の児童が超える | 標準タイム達成児童 1年30% 2年91% 3年77% 4年42% 5年65% 6年91% 全校66% | 休校明け4回実施。全学年共通問題としたことで各学年が触発し合い、意欲的取り組みんだ。標準タイムの見直しが必要。 | ○ |
| 2 新規 | 校内研究「ICTの活用」 | 全学年全教科 | 通年 | 【指導者体制】 全教員 【取り組みのねらい・目的】 ICT機器を活用し、わかりやすい授業を行う。 | 活用回数 | <ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した授業 教師用週3回 児童用週1回以上活用 | <ul style="list-style-type: none"> 教師用週3回以上100% 児童用週1回以上81.3% | 教師は毎日タブレットを持って教室に行っている。児童用も毎時間貸出され、十分活用されている。 | ◎ |

| | | | | | | | | | |
|---------|---------|--|---|---|--|--|--|---|---|
| 3 継続 | 読書活動の充実 | ①読語り 全学年 ②読書旬 間・全学年 ③調べる 学習・中 高学年 | ①後期 から ②年1回 以上設 定 ③夏季 休業中 | 【指導者体制】 ①図書ボランティア ②担任、保護者 【取り組みのねらい・目的】 ①②本に親しみ、読書の習慣 を身に付ける。 ③興味関心のある本に触れ る機会を作る。 | ①② ・児童アンケ ート ・読書冊数 ③作品の出品 | ①②・読書に肯 定的な意見90% 以上 ・目標冊数クリ ア80%以上 ③コンクールの 出品（任意） | ・読書に肯定的な回 答の児童 84.1%（83.2） ・各学年目標読書冊 数達成児童82.3% ・コンクール出品数 114人 | 休校中から貸出を行 い、読書好きな児童 はたくさん本を読ん だ。あまり読まない 児童も一定数いるた め、二極化解消が課 題である。 | ○ |
| 4 継続 | 授業改善 | ①「思考 ツール」 の活用 中高学年 全教科 ②足立ス タANDARD の徹底 | ①② 通年 | 【指導者体制】全教員 【取り組みのねらい・目的】 ①思考を発散し、まとめるス キルを身につけ、話し合い活 動を充実させる。 ②めあて→振り返り・まとめ の質の向上 | ・管理職の授 業観察 ・各担任の週 の指導計画 ・児童アンケ ートで確認す る。 | ①思考ツールを 活用した授業 中高学年：月2 回以上、 低学年：月1回 以上実施 ②肯定的回答 90%以上 | ・思考ツールの活用 中高学年：50% 低学年：50% ・足立スタンダード 肯定的回答92.2% | ・授業を進めること に注力し、思考ツ ールでじっくり学習す る機会をあまり設け られなかった。 ・足立スタンダード は、着実に進められて いる。 | ○ |

| | | | | | |
|----------------------|--|--|---|---|------------|
| 重点的な取組事項－2 | | 豊かな心の育成 | | | |
| A 今年度の成果目標 | | 達成基準 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
| 児童の豊かな人間性を育成 | | 目標実現に向けた取り組みの実施結果 が、4項目とも「おおむね達成」以上 | 4項目とも「おおむね満 足」以上であった。 | コロナ禍であり厳しい環境の中 でできることを行い、豊かな 心を育む取組を進めること ができた。 | ○ |
| B 目標実現に向けた取組み | | | | | |
| 項目 | 達成基準 | 具体的な方策 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
| あいさつの励行 | ・児童アンケート あいさつの項目での肯定 的評価95%以上。 ・あいさつ名人100人超 | ・管理職、教員の正門あいさつ ・チェックリストにより、あい さつの具体的な場面の指導 ・あいさつ名人の取組 | ・児童アンケート 「進んであいさつや返事が できる」 肯定的評価88.3% (91.6) ・あいさつ名人190人 | ・あいさつは概ねできている がマスク生活であり、消極的 な児童は一層その傾向が強 い。大きな声が出せない分、 会釈やアイコンタクトを指導 中である。 | ○ |

| | | | | | |
|--------------------|--|---|---|---|---|
| 人とのかかわり | <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート「友達を大切にできた」肯定的評価 95%以上 「他学年と仲良くできた」肯定的評価 95%以上 | <ul style="list-style-type: none"> ・感染防止に配慮した交流 ・Z o o mを活用した交流活動 ・人権教育、道徳教育の充実 ・お世話になった人への手紙 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート「友達を大切にできた」 95.9 % (97.0) 「他学年と仲良くできた」未調査 (95.8) | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍であり、異学年交流は行わなかった。後半はZ o o mや動画を活用して間接交流を行った。 | ○ |
| 安全で美しい学校 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート「清掃と整理整頓」肯定的評価 90%以上 ・廊下歩き名人 100 人超 | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対策の徹底 ・放課後清掃の実施 ・毎月の安全点検 ・栗原スタンダードの徹底 ・多様な想定避難訓練の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート「清掃と整理整頓に関する項目」 76.3 % (87.7) ・ろうか歩き名人 108 人 | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のため、放課後に当番のみ行う。清掃への意識は下がっている。 ・廊下歩行は折り鶴運動で意識する児童が増えた。 | ○ |
| いじめ防止 不登校への早期対応 | <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ解消率 100% ・不登校 0% ・児童アンケート「学校は楽しい」肯定的評価 95%以上 | <ul style="list-style-type: none"> ・Q U 調査の 2 回実施、分析 ・毎週生活指導連絡会を実施 ・年 2 回の教育相談全体会 ・子ども相談日の設定 ・人権標語、いじめ撲滅標語 ・ふわふわ言葉の推奨 | <ul style="list-style-type: none"> ・2 月末いじめ認知件数 73 件 (66) であり、現在重大事案に発展したものは無い。解消済 72 件、3 か月継続観察中 2 件である。 ・不登校率 0.7% (0.28) ・児童アンケート「学校は楽しい」肯定的評価 89.3% (95.5) | <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ認知事案は即時対応している。今後も学校全体で未然防止、早期解決に努める。 ・臨時休校の影響で学校のリズムに合わない児童がいる。家庭と連携しサポート中。 ・「学校が楽しい」の割合は減少。交流活動や学校行事等できないことが大きい。 | ○ |

| | | | | | |
|----------------------|---|---|---|---|------------|
| 重点的な取組事項－3 | | たくましい体の育成 | | | |
| A 今年度の成果目標 | 達成基準 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 | |
| 自らの健康と体力の向上を目指す児童の育成 | 目標実現に向けた取り組みの実施結果が、3 項目とも「おおむね達成」以上 | 3 項目とも「おおむね満足」以上となった。 | 運動の制限。 | | |
| B 目標実現に向けた取組み | | | | | |
| 項目 | 達成基準 | 具体的な方策 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
| 体育授業・体育的活動の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート「運動が好き」の項目で肯定的評価 93%以上、運動が好きではない児童を 3%以下。 | <ul style="list-style-type: none"> ・体育科授業の環境設定の工夫による運動意欲の向上 ・栗原タイムの計画的実施 ・全学年でオリパラ教育の充実 ・運動発表会の実施 ・運動に親しむ環境の工夫 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート「運動することが好き」肯定的評価 84.9% (90.5) 「運動が好きではない」 3.5% (3.4) | <ul style="list-style-type: none"> ・運動が好きな児童は昨年度より若干下回っている。コロナ禍で運動の制限が多かったのが要因の一つと考えられる。好きではない児童は横ばいである。 | ○ |

| | | | | | |
|------------|---|--|--|--|---|
| 体力の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・長なわチャレンジの区目標記録の平均 70%以上達成 ・長座体前屈のTスコアで都平均を上回る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・長縄記録会 ・短縄週間 ・持久走週間、記録会 ・「パワーアップカード」による家庭との連携 ・ストレッチ運動の励行 | <ul style="list-style-type: none"> ・長なわチャレンジ目標記録 70%以上達成 9 学級 (6) ・目標記録達成 2 学級 (0) ・平均達成率 76.3% (70.8) ・長座体前屈のTスコア 都平均の 98.8% (97.5) | <p>70%を越す学級が増加。記録達成も 2 学級となり、意欲的に取り組めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長座体前屈については都平均をやや下回っているが平均に近づきつつある。 | ○ |
| 食育・保健指導の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート「自分の健康への関心」で肯定的評価 93%以上。 ・給食残菜率 0.6%未滿 ・ベジファーストの実施率 95%以上 | <ul style="list-style-type: none"> ・健康診断時の養護教諭の保健指導、給食時の栄養士の食育指導 ・セレクト給食、リクエスト給食、行事給食等の実施 ・養護教諭や栄養士と連携した学級指導、食育授業 | <ul style="list-style-type: none"> ・自らの健康を考え、健康管理に努める児童 95% (91.4) ・給食の残菜率 0.5% ・ベジファーストの実施率 89.2% (92) | <ul style="list-style-type: none"> ・健康への意識は昨年より増加。コロナの影響で健康への関心は高まっている。 ・残菜率区平均 3%を大きく下回っている。 ・ベジファースト率は 9 割弱。何から食べたらいいか、考える工夫を行っている。 | ○ |

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

- ・学力向上アクションプランについて・・・学校全体としては算数よりも国語に課題が若干見られる。特に3年生は 76.9%の通過率であり、学校平均 83%を約 6%下回っている。内容的には文章読解に課題が見られる。

【対策】・授業では、読取りの際に重要な箇所や必要な箇所にサイドラインを引かせて、大事な部分が可視化できるようにしていく。

・補習学習では、教科書の題材と違う物語や説明文を用意し、読み取りの方法について丁寧に指導していく。

・家庭学習では、読書への関心が低い児童と読解に課題がある児童に相関関係が見られるため、読解問題ではなく読書の宿題を出していく。

- ・豊かな人間性の育成について・・・コロナ禍の影響を一番受けたと考える。学校行事や異学年の交流がほとんど行えず、学校の楽しさが半減してしまう状況であった。また感染予防対策の中であいさつや清掃について、次年度活性化させるための方策を考えていかななくてはならない。
- ・たくましい体の育成・・・様々な制限があり体力低下が心配される。水泳や持久走、ボールゲームなどの運動の制限、休み時間の外遊びの制限等は体力向上、運動の楽しさを味わう両面からマイナスであった。ルールや環境作りを工夫しコロナ禍でも運動に親しめるよう検討していく。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

保護者や地域の皆様には、コロナ禍であっても、本校の教育活動への深いご理解と多大なるご協力をいただき感謝しております。まだまだ先行きは不透明ですが、皆様のご協力をいただきながら、来年度も着実に教育活動を推進してまいります。令和 3 年度は ICT 機器が一人 1 台配備されることとなります。学校で十分に活用した後、ご家庭での活用も行うようになります。是非今から、使い方やルールについて話題にしていってください。

(3) その他(学校教育活動全般について)

この 1 年は今まで経験したことのない特殊で貴重な 1 年だった。これまで当たり前に行ってきたことができずに、方法だけでなく在り方の見直しをもする機会となった。これからの時代や環境に対応するため、学校行事なども変わって行かざるを得ない状況である。入学式、卒業式、運動会等をはじめとした各種行事の見直しを行い、安全で効率的な運営や内容を検討していく。保護者、地域の皆様には、ぜひともご理解、ご協力をお願いしたい。